

小学校教育実習における生徒指導の実際

戸田 浩暢

(2015年10月9日 受理)

On Student Teacher Guidance in Practice Teaching at Elementary Schools

Hironobu TODA

Abstract

The present article deals with the problem of how student teachers' anxieties change. This problem is related to the following five points of student guidance on the basis of the results from the questionnaires: guidance for learning lifestyle-related habits, guidance for following social norms, guidance for understanding classes, guidance for keeping away problematic behavior, and guidance for keeping an open mind. What we are concerned here is how we should advise student teachers before they do practice teaching at elementary schools in order to ease their anxieties.

Keywords: practice teaching at elementary schools, student teacher guidance

1. はじめに

稿者は教育実習参加者の実習前と実習後における不安感の推移の比較・考察した研究¹⁾を行い、他の研究²⁾同様に、教育実習の事前と事後では、教育実習参加者の不安感に低減がみられたことを「指導能力」・「人間関係」・「体調管理」・「実習全体」の4領域に分けて明らかにしている。これは、自らが教育実習を経験することによって、過剰に抱いていた不安感を払拭することができ、また、教育実習終了直後の達成感・解放感が不安感を低減したのではないかと考えられる。しかし、管見したところ、澤登(2007)³⁾にもみられるように、教育実習全体に関わる事項の研究はなされているが、生徒指導に係る事項の不安感の変化に特化した研究は十分には行われておらず、稿者は小学校教育実習における生徒指導に係る不安感の変化に関して、「小学校教諭希望学生」と「保育士・幼稚園教諭希望学生」の両者の違いを比較した研究を行い、両者の実習前と実習後における生徒指導に係る不安感の推移の違いについて明らかにし、今後

の小学校教育実習参加者に対する指導の在り方について考察した⁴⁾。その結果、全体としては、他の研究同様に、小学校教育実習の事前と事後では、教育実習参加者の不安感の低減がみられた。これは、自らが小学校教育実習を経験することによって、過剰に抱いていた生徒指導に係る不安感を払拭することができたためと考えられる。他方、両者共に不安感の低減があまりみられなかったり、逆に不安感が増大した事項があった。これは、実習が短期間であるため、大きな課題に対して解決の方法が具体的には分からなかったためと考えられる。

本稿では、小学校教育実習における生徒指導に係る不安感の変化に関して、「基本的生活習慣に係る指導」・「ルール・規範意識に係る指導」・「授業に係る指導」・「問題行動に係る指導」・「豊かな心を育成することに係る指導」の5領域の中で、具体的にどのような変化がみられるのかを、小学校教育実習参加者のアンケート記述を分析することによって明らかにしていきたい。

2. 研究の目的と方法

本研究の目的は、本学で小学校教育実習に参加した38名の学生（アンケートに回答した4年生の人数）の小学校教育実習における生徒指導に係る5領域（「基本的生活習慣に係る指導」・「ルール・規範意識に係る指導」・「授業に係る指導」・「問題行動に係る指導」・「豊かな心を育成することに係る指導」）における不安感の変化をアンケートの記述の分析を元に明らかにすることである。また、小学校教育実習に係る学生の生徒指導に係る不安感の低減に関して、今後の指導の在り方を考察したい。

研究の方法としては、次の表1に示した質問のアンケート（今、あなたが小学校教育実習に

表1 小学校教育実習に係るアンケート

1	基本的生活習慣に係る指導 ①日常の学校生活における「挨拶の指導」 ②日常の学校生活における「言葉遣いの指導」 ③「服装・身だしなみの指導」 ④「衛生習慣・健康管理の指導」 ⑤「整理・整頓の指導」 ⑥「給食の時間を利用して行う食事の指導」
2	ルール・規範意識に係る指導 ①「登下校の時間・ルールの指導」 ②「学級のルール作りの指導」 ③「休憩時間の使い方・遊びのルールの指導」 ④「清掃活動における指導」 ⑤「規範意識を育てる全般的な指導」
3	授業に係る指導 ①授業時における「言葉遣いの指導」 ②授業時における「私語への指導」 ③「教科指導における学習ルールの指導」
4	問題行動に係る指導 ①「器物破損への対応と指導」 ②「暴力行為への指導」 ③「いじめへの指導」 ④「不登校への指導」
5	豊かな心を育成することに係る指導 ①「豊かな心を育成する日常生活での指導」 ②「道徳の時間を活用した豊かな心を育成する指導」

における生徒指導上の事項に関して、最も不安に思っていることを選択し、その理由を書いて下さい。)を、実習の事前・事後に実施し、得られた記述データを分析していく。

なお、事前アンケートに関しては、2015年4月13日に実施し、事後アンケートに関しては、2015年10月6日前後に実施した。アンケート項目に関しては、内藤勇次編著の書籍(2000)の内容項目を参考にした。

3. 小学校教育実習における生徒指導に係る不安感の変化

本節は、アンケート項目に従って、小学校教育実習に対する参加前と参加後における生徒指導に係る5領域における不安感の変化及び、理由の記述を元に分析を行っていく。なお、括弧内は記号選択人数と全体の割合の事前アンケートの結果と事後アンケートの結果を示している。そして、枠内の上段は事前アンケートの記述であり、下段は事後アンケートの記述である。

まず、第1の領域である「基本的生活習慣に係る指導」に関しては、次の記述等がみられた。なお、事後アンケートで「特になし」は6人(16%)であった。

①日常の学校生活における「挨拶の指導」事前(3人:8%)→事後(1人:3%)
・挨拶をしない子供に対して、どのように声掛けをして良いか分からない。(2人)
・朝の挨拶をしっかりとるように声掛けをすること。

この項目を選択した学生は、事前が3人(8%)と少なく、事後においては1人(3%)とさらに減少している。「挨拶の指導」は、最も基礎的な指導事項であるため、このような結果になったと考えられる。

②日常の学校生活における「言葉遣いの指導」事前(14人:37%)→事後(13人:34%)
・自分自身が言葉遣いに自信が無いから。(7人)
・小学校実習は初めてで、子供たちに対する話し掛け方が不安です。(3人)
・言葉遣いが悪い子供にしっかりと注意できるか不安。
・どこまで関わって注意をしたりすれば良いか分からないから。
・学年に合った言葉遣いができるかどうか。
・今の小学生の言葉遣いがどのような感じか分からないから。
・授業中と休憩時間中のメリハリを付けるのが難しかったため。(4人)
・私も言葉遣いに自信がなかったため。(3人)
・先生への言葉遣いを丁寧にさせるよう意識させることが難しかったため。(2人)
・低学年だったので言葉遣いが正しくない児童もみられた。厳しく指導すべきか悩んだ。
・実習生を友達のように思い、敬語を使わない児童がおり、対応に困った。
・私が小学生の時と違い、厳しかったから。
・どこまで言葉遣いについて注意して良いのか困った。

この項目を選択した学生は、事前が14人（37%）と最も多く、事後においても13人（34%）と選択学生は高い割合のままであった。「自分自身が言葉遣いに自信が無いから。」という、日頃の自分の言葉遣いに対して不安を抱えていることが事前の記述にみられたり、今まで幼稚園実習や保育実習は経験してはいるが、言葉遣いの指導に厳しい初めての小学校実習ということで、「小学校実習は初めてで、子供たちに対する話し掛け方が不安です。」と、不安を覚えた学生が多かった。事後においても、具体的な場面における指導の難しさを感じ、不安を覚えた学生は減少しなかったと考えられる。

③「服装・身だしなみの指導」事前（4人：11%）→事後（2人：5%）

- ・基準が良く分からないから。（3人）
- ・保護者の方のこだわりもありそうだから。
- ・制服をズボンに入れていない子がいて、なかなか毎回注意ができなかった。（2人）

この項目を選択した学生は、事前が4人（11%）と少なく、事後においては2人（5%）とさらに減少している。「服装・身だしなみの指導」も、基礎的な指導事項であるため、このような結果になったと考えられる。

④「衛生習慣・健康管理の指導」事前（5人：13%）→事後（5人：13%）

- ・指導の見通しが立たない。
- ・どのように指導すればよいか分からないから。
- ・衛生習慣について指導している情報が少ないから。
- ・モンスターペアレントが出てきたら怖い。
- ・自分自身も健康管理に不安があるので。
- ・実習生にだけ「お腹が痛い」などよく来る子どもの対応が難しかった。
- ・保健室に行くように言うことしかできなかったから。

この項目を選択した学生は、事前が5人（13%）と少なく、事後においては5人（13%）と変化はみられなかった。事前の段階では、「指導の見通しが立たない。」「どのように指導すればよいか分からないから。」「衛生習慣について指導している情報が少ないから。」という記述がみられ、指導の情報の少なさが不安感を高めたと考えられる。事後においては、具体的な場面における指導の難しさを感じ、不安を覚えた学生は減少しなかったと考えられる。

⑤「整理・整頓の指導」事前（0人：0%）→事後（5人：13%）

- ・整理や整頓がとても苦手な子が何人かいたため。（2人）
- ・何度も注意をしてもなかなか身に付かない児童がいたから。

この項目を選択した学生は、事前が0人（0%）と最も少なかったが、事後においては5人（13%）と少ないながらも、唯一増加がみられた。実際の学校現場において、教室環境を整える「整理・整頓の指導」に対して、「整理や整頓がとても苦手な子が何人かいたため。」と、身に付いていない児童が存在することから、指導に対する不安を感じる学生が増加したと考えられる。

<p>⑥「給食の時間を利用して行う食事の指導」事前（12人：32%）→事後（6人：16%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事のマナーを正しく伝えることができるか不安。（3人） ・好き嫌い、食べる量の違いなど個人差が大きいため、みんなに合った指導が不安。（3人） ・どのようにして行うのか、あまり想像できないから。（2人） ・食事の取り方や食べ方などは、それぞれの家庭によって違うから。 ・食事の中で何が一番大切だと指導しているか分からないから。 ・時間内に食べるように促しつつ、会話も大切に作るバランス。 ・自分自身、苦手なものが出てきたときに、嫌だと思って顔に出ないか気になる。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任と同じように指導したが十分かどうか不安。（2人） ・嫌いな食べ物を児童が食べない時、いろいろ言っただけで難しかったから。 ・配膳に時間が掛かるため、食事の指導まで手が回らなかった。 ・うまくできなかった。 ・食事の私語を止めさせることが難しかったため。
--

この項目を選択した学生は、事前が12人（32%）と2番目に多かったが、事後においては6人（16%）と半減した。今までの幼稚園実習や保育実習においては、「楽しく食事をする」ということが重視されていたのに対して、小学校における給食指導では、「食事のマナー」や「好き嫌いをなくし食べきる」という指導が重視されるため、「食事のマナーを正しく伝えることができるか不安。」「好き嫌い、食べる量の違いなど個人差が大きいため、みんなに合った指導が不安。」という記述がみられた。事後においては、事前に考えていたよりは指導が難しいケースが多く、指導に対する不安が減少したと考えられる。

第2の領域である「ルール・規範意識に係る指導」に関しては、次の記述等がみられた。なお、事後アンケートで「特になし」は0人（0%）であった。

<p>①「登下校の時間・ルールの指導」事前（2人：5%）→事後（2人：5%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールが子供は守ることができているか不安。 ・どこまで指導すれば良いか分からないから。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校中、並ばずに帰る子への声掛けが難しかった。（2人）
--

この項目を選択した学生は、事前が2人（5%）と最も少なく、事後も変化はみられず2人（5%）と最も少なかった。「登下校の時間・ルールの指導」は、実習において実習生が主体となって指導することではなく、実習以前から日常的に学校が指導をしていることと捉えていた

と考えられる。

②「学級のルール作りの指導」事前（9人：24%）→事後（7人：18%）

- ・学級の様子を理解していないので難しそう。（5人）
- ・学級で楽しく過ごす為には何をするといいのかの指導が不安。
- ・ルールを決めて学級の団結力を高めるようにするにはどうすればよいか分からないから。
- ・自分の言うことを半分くらいしか聞いてくれない時があったため。
- ・発達障害の児童が多く、ルールを簡単で分かりやすくする工夫が必要だったため。
- ・児童同士の関係づくりを含めて難しかった。

この項目を選択した学生は、事前が9人（24%）と2番目に多かったが、事後は7人（18%）と多少の減少がみられた。事前の段階では、「学級の様子を理解していないので難しそう。」という記述が5人にみられ、指導の情報の少なさが不安感を高めたと考えられる。事後においては、具体的な場面における指導の難しさを感じ、不安を覚えた学生はあまり減少しなかったと考えられる。

③「休憩時間の使い方・遊びのルールの指導」事前（7人：18%）→事後（9人：24%）

- ・普段のルールを知らないから。（2人）
- ・信頼関係ができていないのに指導できるか不安。（2人）
- ・子供たちと何をして遊んだらいいのか、仲間に入れてもらえるかどうか。
- ・喧嘩無く、もめ事無く、仲良く遊べるかどうか。
- ・なかなかルールを守れない児童がおり、対応に苦慮した。（4人）
- ・教室の中でだけ遊ぶのでは無く、外に出て遊ぶように指導すること。（2人）
- ・走り回っている子供に対しての注意の仕方が分からなかった。
- ・遊びのルールがなかなか決まらず、支援に困った。
- ・「廊下を走らない」というルールの徹底の指導が難しかった。

この項目を選択した学生は、事前が7人（18%）で、事後は9人（24%）と多少の増加がみられた。事前の段階では、「普段のルールを知らないから。」という指導の情報の少なさや、「信頼関係ができていないのに指導できるか不安。」という人間関係に関わるのが不安感を高めたと考えられる。事後においては、「なかなかルールを守れない児童がおり、対応に苦慮した。」という記述がみられ、実際の指導の場面でルールに従わない児童への対応に苦慮し、不安を覚えた学生が多少増加したと考えられる。

④「清掃活動における指導」事前（5人：13%）→事後（17人：45%）

- ・どのように指導したらよいか分からないから。（3人）
- ・子供たちにも掃除は面倒だという印象があると思うから。
- ・現在の小学校の掃除のルールが分からないから。

- ・掃除の仕方が分かっていない子がいたり、先生がいなくなると真面目に掃除をしない子が多数いたため。(8人)
- ・清掃活動がスムーズに行えなかったから。(3人)
- ・縦割りの清掃で難しかったから。(2人)
- ・どのように注意したら良いか分らなかった。
- ・掃除は男の子がさぼりがちで困ったので。

この項目を選択した学生は、事前が5人(13%)と少なかったが、事後は17人(45%)と最も多くの増加がみられた。事前の段階では、「どのように指導したらよいか分からないから。」「現在の小学校の掃除のルールが分からないから。」という記述がみられ、指導の情報の少なさが不安感を高めたと考えられる。事後においては、「掃除の仕方が分かっていない子がいたり、先生がいなくなると真面目に掃除をしない子が多数いたため。」という記述が8人にみられ、実際の指導の場面でルールに従わない児童への対応に苦慮し、不安を覚えた学生が多少増加したと考えられる。

⑤「規範意識を育てる全般的な指導」事前(15人:39%)→事後(3人:8%)

- ・実際にどのような指導をされておられるか分からないから。(5人)
 - ・どこまで強くきまりを守りましょうと伝えれば良いか分からないから。(4人)
 - ・指導を聞いてくれるか分からないから。(2人)
 - ・スキルが無いとできないと思うから。
 - ・しっかり指導できるか不安。
-
- ・宿題をやってこなかった児童に対する指導に困りました。
 - ・強く指導し過ぎると、逆に規則を守らない児童も中にいたから。

この項目を選択した学生は、事前が15人(39%)と最も多かったが、事後は3人(8%)と大きく減少がみられた。事前の段階では、「実際にどのような指導をされておられるか分からないから。」「どこまで強くきまりを守りましょうと伝えれば良いか分からないから。」という記述がみられ、指導の情報の少なさが不安感を高めたと考えられる。事後においてこのように大きな減少がみられたのは、この「ルール・規範意識に係る指導」の領域において、「清掃活動における指導」のように、より具体的な場面での指導への不安が高まった結果ではないかと考えられる。

第3の領域である「授業に係る指導」に関しては、次の記述等がみられた。なお、事後アンケートで「特になし」は9人(24%)であった。

①授業時における「言葉遣いの指導」事前(13人:34%)→事後(7人:18%)

- ・自分自身がきちんとした言葉遣いをすることができるかどうか。(5人)
- ・丁寧すぎず、くだけすぎずのバランスに不安がある。(3人)
- ・先生や目上の人に敬語を使うように言っても、敬語を使わない子供もいるから。(2人)

- ・子供たちの発言する語尾がとても不安です。
 - ・個別に指導するのではなく、授業中にみんなの前で指導することが難しい気がする。
 - ・授業の進行との両立が不安。
-
- ・指導全般が難しかった。(3人)
 - ・語尾に「です」「ます」を付けていない時に、促すのに困った。
 - ・発達障害の児童等、気になる子供が10人くらいいたため、対応・指導に苦慮したため。
 - ・どこまできちんと指導すればよいのか分からないから。
 - ・自分自身がきちんとした言葉遣いをすることができるかどうか。

この項目を選択した学生は、事前が13人(34%)と3人に1人であったが、事後は7人(18%)とほぼ半減した。事前の段階では、「自分自身がきちんとした言葉遣いをすることができるかどうか。」「丁寧すぎず、くだけすぎずのバランスに不安がある。」と、日頃の自分の言葉遣いに対して不安を抱えていることが事前記述にみられた。事後においては、「指導全般が難しかった。」という記述がみられ、授業時における「言葉遣いの指導」のみならず、授業全体の指導に関して不安が残ったと考えられる。

②授業時における「私語への指導」事前(16人:42%)→事後(6人:16%)

- ・授業が止まってしまうが、どのように指導すれば良いか分からない。(7人)
 - ・あまり注意すぎると授業が進めにくくなるのではないか。(4人)
 - ・授業をすることでいっぱいになり、私語まで気を配れるか自信が無いから。(2人)
 - ・授業中の私語が多いか不安。
 - ・あまりにも私語が止まらず、注意をしすぎて反感を持たれることが怖い。
-
- ・私語が止まない時がたまにあり、どのように言うべきか分からなかった。(2人)
 - ・子供の集中力を黒板に向けるようにした。
 - ・音楽等で楽しみながら私語をなくすようにすることが難しかった。
 - ・私語を注意するとやる気がなくなってしまう児童もいて注意の仕方が難しかった。

この項目を選択した学生は、事前が16人(42%)と最も多かったが、事後は6人(16%)と大幅な減少がみられた。事前の段階では、「授業が止まってしまうが、どのように指導すれば良いか分からない。」「あまり注意すぎると授業が進めにくくなるのではないか。」「授業をすることでいっぱいになり、私語まで気を配れるか自信が無いから。」と、授業時における「私語への指導」をどのようにしてよいか分からないことから不安感が高まったと考えられる。事後においては、日頃のクラス担任の指導により、実際の授業場面で私語が余りみられなかったため、大幅な減少がみられたと考えられる。

③「教科指導における学習ルールの指導」事前(9人:24%)→事後(16人:42%)

- ・自分自身がしっかりと授業できるか自信が無いので。(3人)
- ・分かりやすく伝えることができるか不安。
- ・授業中の注意が難しいのではないだろうか。

- ・注意の仕方がよく分からないから。
 - ・学習ルールを知らないため。
-
- ・姿勢正しく、前を向いて授業を受けるようにする指導。(4人)
 - ・毎回、授業準備時に確認することが大変だった。(3人)
 - ・子供への指示が難しかった。(2人)
 - ・話を聴かない児童、授業中に宿題をする児童、学習障害を持つ児童など、対応に困った。
 - ・分かったら手を上げる、という指導が難しかった。
 - ・個別に指導が必要な児童につきすぎると、他の児童が不満に思うため。
 - ・習熟度別のクラスでの授業の時、誰に合わせていいのか分からなくなった。

この項目を選択した学生は、事前が9人(24%)であったが、事後は16人(42%)と倍増に近い状況がみられた。事前の段階では、「自分自身がしっかりと授業できるか自信が無いので。」という、授業実施の全般的な面に対する不安が記述にみられたが、事後においては、「姿勢正しく、前を向いて授業を受けるようにする指導。」「毎回、授業準備時に確認することが大変だった。」「子供への指示が難しかった。」などの記述にみられるように、具体的な指導の場面で対応が不十分であったことに対して不安感が残ったと考えられる。

第4の領域である「問題行動に係る指導」に関しては、次の記述等がみられた。なお、事後アンケートで「特になし」は28人(74%)であった。

①「器物破損への対応と指導」事前(2人:5%)→事後(1人:3%)

- ・学校のもの大切にすることを伝えることが不安。
 - ・トラブル時に対処できるか不安。
-
- ・器物破損のトラブル対応が1日にいくつもあって、精神的に疲れたため。

この項目を選択した学生は、事前が2人(5%)と最も少なく、事後においても1人(3%)と減少した。この「問題行動に係る指導」の領域では、他の項目(いじめ)に対してより不安を抱いた結果であると考えられる。

②「暴力行為への指導」事前(7人:18%)→事後(3人:8%)

- ・言葉掛けなど対応が分からない。
 - ・急に喧嘩が始まったときの対応が分からないから。
 - ・高学年だと怖い。
 - ・ふざけているのか、遊んでいるのか、暴力を振っているのかの見極め。
 - ・遊んでいる中から暴力行為に発展しそうだから。
-
- ・叩き合いや蹴り合いを止める際の声掛けが難しかったから。
 - ・特に男子がじゃれ合っているとヒートアップすることがあり、危ない場面を何度か見た。

この項目を選択した学生は、事前が7人(18%)で、事後では3人(8%)と減少がみられた。事前においては、「言葉掛けなど対応が分からない。」などの記述にみられるように、対応

の仕方に不安感を持ったと考えられる。事後において減少したのは、「特に男子がじゃれ合っているとヒートアップすることがあり、危ない場面を何度か見た。」という記述もみられるが、実際の教育実習中にはあまり暴力行為はみられなかったからではないかと考えられる。

③「いじめへの指導」事前（25人：66%）→事後（4人：11%）

- ・どこまで関われば良いか分からないから。（10人）
 - ・いじめに気付けるか、止めさせられる不安。（9人）
 - ・もしも、いじめのあるクラスに配属されたらどうしたらよいか分からない。（3人）
 - ・目の前で起こっていることだけを指導してしまうと、事実とは異なることがあるかもしれないから、どのように声掛けをしたら良いか分からないから。
 - ・実習生の立場から見て、いじめは分かりにくいと思ったから。
 - ・自分の発言一つでいじめがエスカレートしてしまう原因にならないかが怖い。
-
- ・遊びの中での仲間外れが起こったときに困った。
 - ・喧嘩や言い合いがあって、自分に助けを求められた時、対応が難しかった。
 - ・児童に意識がなくても、いじめにつながる様なことがあった時に、注意の仕方が難しい。

この項目を選択した学生は、事前が25人（66%）と最も多かったが、事後は4人（11%）と大幅な減少がみられた。事前においては、「どこまで関われば良いか分からないから。」「いじめに気付けるか、止めさせられる不安。」などの記述にみられるように、対応の仕方に不安感を持ったと考えられる。事後において減少したのは、「遊びの中での仲間外れが起こったときに困った。」という記述もみられるが、実際の教育実習中にはあまりいじめはみられなかったからではないかと考えられる。

④「不登校への指導」事前（4人：11%）→事後（2人：5%）

- ・不登校の子供とどのように関われば良いか不安。（3人）
 - ・子供の気持ちを理解できるか不安。
-
- ・不登校児童の対応をされている先生の様子を見て、大変そうだったから。
 - ・実習校のクラスでは不登校児童はいなかったが、対応に不安。

この項目を選択した学生は、事前が4人（11%）と少なく、事後においても2人（5%）と減少した。この「問題行動に係る指導」の領域では、他の項目（いじめ）により不安を抱いた結果であると考えられる。

第5の領域である「豊かな心を育成することに係る指導」に関しては、次の記述等がみられた。なお、事後アンケートで「特になし」は15人（39%）であった。

①「豊かな心を育成する日常生活での指導」事前（26人：68%）→事後（11人：29%）

- ・日常生活でどう指導すれば良いか分からないから。（12人）
- ・日常生活でどう育成されるか分からないから。（7人）

- ・お友達感覚にならないか不安。
- ・日常的な声掛けの仕方について。
- ・日常生活での指導は、信頼関係や日々の関わりがなければできないことだから。
- ・自分にそのような指導ができる余裕があるかどうか自信が無いから。
- ・子供に考えさせるのでは無く、自分の考えを押しつけてしまいそうで不安。

- ・どのようにすればよいか具体的に分からなかった。(4人)
- ・日常生活では実習生に甘えたがるのでメリハリを付けづらかったため。
- ・学校目標でもあったが、自分の指導が十分か不安。
- ・児童との関わり方は正解がなく、難しい。
- ・日常生活の中で子供たちに仲間意識を持たせる指導が難しいと思った。

この項目を選択した学生は、事前が26名(68%)と最も多かったが、事後は11名(29%)と大幅な減少がみられたが、約3人に1人は不安を持っていることが分かる。事前においては、「日常生活でどう指導すれば良いか分からないから。」「日常生活でどう育成されるか分からないから。」などの記述にみられるように、対応の仕方や情報の不足に対して不安感を持ったと考えられる。事後においては、「どのようにすればよいか具体的に分からなかった。」などの記述にみられるように、具体的な指導の場面で指導が不十分であったことに対して不安感が残ったと考えられる。

②「道徳の時間を活用した豊かな心を育成する指導」事前(12名:32%)→事後(12名:32%)

- ・どのような指導をすれば良いか分からないから。(5人)
- ・道徳の時間の授業の進め方に不安があるから。(2人)
- ・豊かな心を育成するための授業づくりが難しいのではないだろうか。
- ・授業でちゃんと教えられるか不安。

- ・授業を通して、自分が本当に狙いを達成できるのかと思った。(6人)
- ・児童の心に響くように伝えることが難しかったから。(2人)
- ・道徳の時間に、自分の体験を振りかえさせるのが難しかったから。
- ・子供の経験と教材のつながりをつくることができたか不安。
- ・他の授業と関連させながら道徳性を養うことの難しさ。
- ・児童に考えさせる発問の仕方が難しかったです。
- ・国語のようになっていないかどうか不安。

この項目を選択した学生は、事前が12名(32%)で、事後も12名(32%)と変化がみられなかった。事前においては、「どのような指導をすれば良いか分からないから。」「道徳の時間の授業の進め方に不安があるから。」などの記述にみられるように、道徳の授業全般の指導に対して不安感を持ったと考えられる。事後においては、「授業を通して、自分が本当に狙いを達成できるのかと思った。」「児童の心に響くように伝えることが難しかったから。」などの記述にみられるように、具体的な授業場面で指導が不十分であったことに対して不安感が残ったと考えられる。

4. 5領域における変化と考察

まず、第1の領域である「基本的生活習慣に係る指導」に関しては、日常の学校生活における「言葉遣いの指導」の項目を選択した学生が、事前14人（37%）、事後13人（34%）と高い割合のままであった。事後においても、具体的な場面における指導の難しさを感じ、不安を覚えた学生は減少しなかったと考えられる。なお、事後アンケートで「特になし」は6人（16%）であった。これは、実際に実習を行い、自分自身が考えていた以上に指導が容易であったと感じたためであると考えられる。

第2の領域である「ルール・規範意識に係る指導」に関しては、「規範意識を育てる全般的な指導」の項目を選択した学生が、事前15人（39%）が事後3人（8%）に大幅に減少し、逆に「清掃活動における指導」事前5人（13%）が事後17人（45%）と大幅に増加している。実際の指導の場面でルールに従わない児童への対応に苦慮し、不安を覚えた学生が多少増加したと考えられる。また、多くの実習校において、掃除の指導の徹底が日頃からなされていない可能性も考えられる。なお、事後アンケートで「特になし」は0人（0%）であった。これは、実際に実習を行い、自分自身が考えていた以上に指導が難しいと感じたためであると考えられる。

第3の領域である「授業に係る指導」に関しては、授業時における「私語への指導」の項目を選択した学生が、事前16人（42%）が事後6人（16%）と大幅に減少し、逆に「教科指導における学習ルールの指導」の項目を選択した学生が、事前9人（24%）が事後16人（42%）と大幅に増加している。具体的な教科の指導の場面で対応が不十分であったことに対して不安感が残ったと考えられる。なお、事後アンケートで「特になし」は9人（24%）であった。これは、実際に実習を行い、自分自身が考えていた以上に指導が容易であったと感じたためであると考えられる。また、クラス担任が日常的に指導を徹底している、比較的落ち着いたクラスに配属されたことによるものとも考えられる。

第4の領域である「問題行動に係る指導」に関しては、「いじめへの指導」の項目を選択した学生が、事前25人（66%）が事後4人（11%）と大幅に減少している。実際の教育実習中にはあまりいじめはみられなかったからではないかと考えられる。なお、事後アンケートで「特になし」は28人（74%）であった。これも、問題行動に係る指導をしなければならないクラスに配属されなかったためと考えられる。

第5の領域である「豊かな心を育成することに係る指導」に関しては、「道徳の時間を活用した豊かな心を育成する指導」の項目を選択した学生が、事前12人（32%）が事後12人（32%）

と変化がみられない。具体的な授業場面で指導が不十分であったことに対して不安感が残ったと考えられる。なお、事後アンケートで「特になし」は15人（39%）であった。これは、実際に実習を行い、自分自身が考えていた以上に指導が容易であったと感じたためであると考えられる。

5. お わ り に

本稿では、小学校教育実習へのアンケートの記述の分析を元に、生徒指導に係る5領域（「基本的生活習慣に係る指導」・「ルール・規範意識に係る指導」・「授業に係る指導」・「問題行動に係る指導」・「豊かな心を育成することに係る指導」）における不安感の変化を明らかにした。各領域においては、事前に不安に考えていた事項が、実際の実習を通して変化した状況もみられる。全体としては、他の研究同様に、小学校教育実習の事前と事後では、教育実習参加者の不安感の低減がみられた。これは、自らが小学校教育実習を経験することによって、過剰に抱いていた生徒指導に係る不安感を払拭することができたためと考えられる。他方、不安感の低減があまりみられなかった事項があった。これは、実習が短期間であるため、十分な対応の仕方が具体的には分からなかったためと考えられる。

そして、小学校教育実習における生徒指導に係る学生の不安感の低減に関して、次の指導の在り方が考えられる。アンケート項目の「基本的生活習慣に係る指導」に関しては、2年生からの幼稚園実習・保育所実習・施設実習・特別支援学校実習等の豊富な実習経験を有効に生かすと共に、学生に適切な日常の生活態度・言動を意識させる指導の充実が考えられる。アンケート項目の「ルール・規範意識に係る指導」に関しては、保育所・幼稚園と小学校における指導の違いを明確にし、小学校で望まれるより高い水準でのルール・規範意識に係る指導の徹底の在り方を具体的に学ばせることが考えられる。アンケート項目の「授業に係る指導」に関しては、初等教科教育法の授業と関連させながら、3年生から自主的に模擬授業の経験を積み、今以上に、演習形式の回数を増やすと共に、模擬授業で児童役が私語・立ち歩き等の問題行動を行うことで、適切な対応方法を身に付けさせることが考えられる。アンケート項目の「問題行動に係る指導」については、器物破損・暴力行為・いじめ・不登校は保育園・幼稚園にはあまりみられず、小学校ではしばしば発生すると同時に徹底した指導が求められるという状況があり、事前の情報提供や、具体的事例に基づいた対応について考えさせる指導が考えられる。アンケート項目の「豊かな心を育成することに係る指導」については、早い時期から小学校教育における生徒指導と道徳教育の深い関連性に着目させ、日頃から具体的事例を紹介し、小学校教育実習における自己の対応を考えさせる必要がある。また、全体に関わって、事前にボランティアで小学校の教育活動に参加し、情報を収集して知見を深めることも重要であると考えられる。

【引用文献】

- 1) 戸田浩暢：学生の教育実習に対する不安感の考察，広島女学院大学人間生活学部紀要，創刊号，pp. 47-57, 2013
- 2) 三島知剛・山崎光洋・高旗浩志・関根正美・渡邊将勝・赤崎哲也・柴田靖子・岸 晶子・太田泰子・加賀 勝：1年次教育実習プログラムの成果と課題の検討—平成23年度教育実習Ⅰ受講生アンケートの結果から—，岡山大学教師教育開発センター紀要，第2号，pp. 112-119, 2012など
- 3) 澤登義洋：教育実習事前事後指導の今後の方向—少人数演習形式による教育実習事前指導受講者へのアンケート調査をもとに—，教育実践学研究，12号，pp. 82-98, 2007
- 4) 戸田浩暢：小学校教育実習における生徒指導に係る不安感の変化，広島女学院大学人間生活学部紀要，第2号，pp. 59-70, 2014

【参考文献】

- 内藤勇次編著：小学校生徒指導の実際，学事出版，2000
内藤勇次編著：小学校生徒指導の基礎・基本，学事出版，2000
高橋 超・石井眞治・熊谷信順編著：生徒指導・進路指導，ミネルヴァ書房，2002